

ポリクリを終えて

ポリクリを終えて

歯学部歯学科5年 荻野奏恵

臨床実習が始まって4カ月。学生でありながら患者さんの治療に参加させていただき緊張と不安、痛感する実力、目標を成し遂げた時の達成感に揉まれながら少しでも早く学生という殻を破ろうと奮闘する毎日ですが、5月11日の登院式で期待と緊張を胸に緑衣に腕を通したことは鮮明に覚えています。

新潟大学では5年生の10月から1年間、大学病院で患者さんの治療をさせていただき臨床実習が行われます。その予備実習としてあるのがポリクリです。ポリクリは5年生の5月から9月までの間、各診療科を回り、臨床現場を身をもって体験します。4年生までは模型相手に実習をしていましたが、ポリクリでは2人1組となって相互実習を行うのが主です。

実習では口腔内の型を取り合ったり、口腔内清掃をしたり、麻酔をしたり、採血をしたりします。中でも1番緊張したのが伝達麻酔の実習でした。先輩から話を聞いていたこともありポリクリの予定表が配布されて1番最初に確認したのが麻酔の実習日でした。数日前からカウントダウンをして心の準備をする人、実習手順を呪文のように唱える人、割り箸を麻酔針の代わりにしてイメージトレーニングをする人（私もやりました）。今だから言えますが、当時はペアの子に緊張を見せまい

と冷静を装っていましたが、いざ注射筒を手につくと震えて口腔内に麻酔液が垂れてしまい先生に後押しされながらなんとか実習を終えました。実習後、申し訳なさでいっぱいの人に「最初に液が漏れていたおかげで刺された時は全然痛くなかったよ」と声をかけてくれた時には少し救われた気がしました。その後の実習で何度かお互いに麻酔を打ち合うことはありましたが、回数を重ねるごとに冷静に対応できている自分がいました。ポリクリで得られた経験は同期がいたからこそだと思います。

お忙しい中時間を割いてとことん付き合ってください先生方、未熟な私たちに快く協力してください患者さん、見えないところでも支えてくださる病院関係者の方々、そしてどんな時も相談相手となり心の支えとなってくれる同期、全ての人に感謝の気持ちを忘れず、立派な歯科医師になって恩返しができるよう努力し続けていきたいと思えます。



ポリクリを終えて

歯学部歯学科5年 飯島 翼

「ポリクリ」大学生になった頃から先輩たちの会話でよく耳にする言葉だった。

しかし、何をするのか正直分からないまま緑衣を着て当院式を迎えた。ポリクリは各診療科をまわり臨床実習を行うために必要な知識・技能・態度を身に付ける実習であった。その中で最も印象に残っているのが学生同士で互いに浸潤麻酔をかけたことである。まず、自分が術者として麻酔を打つことになった。ユニットで横になった状態の人の口腔内を診るのでさえ初めてであった自分は、それに加え麻酔を打たなければならないという状況に緊張と恐怖、そして練習相手の友達に対する少しの罪悪感を抱き、手は震え、大量の汗をかいていた。歯科診療において麻酔操作は当たり前のように行われている。こんな基本的なことも十分にできず、臨床における知識も技能も態度もまだまだ不十分であり、当たり前のことを当たり前に行うことの難しさを痛感した。

そこからCBT、OSCEを無事通過し臨床実習が始まった。現在13名の患者さんを担当させていただいているが、臨床実習は毎日が発見の連続である。歯の本数、大きさ、形、舌の大きさ、頬粘

膜の弾性、開口量、咬合など人によって様々だ。虫歯ができれば歯を削って詰める。歯周病になれば歯周基本治療または外科治療をする。教科書にはそう書いてある。しかし、治療する前に「なんで虫歯ができたのか」「なんで歯周病になったのか」を考えなければいけない。人によって多種多様な口腔内状況において虫歯や歯周病になった原因は必ずしも同じではない。根本的な原因を考える重要性や考える楽しさを臨床実習を通じて日々学んでいる。ポリクリの時に感じたように、まだまだ、経験も乏しく、知識も不十分だが歯医者になるための第一歩を踏み始めたことを自覚し日々努力していきたいと思う。



SVでブラジルへいった際に 筆者は左から2番目

ポリクリを終えて

歯学部歯学科5年 武田 渉

今回歯学部ニュースの本題材で原稿依頼を頂いたのが2018年1月下旬。臨床実習が始まり、はや3ヶ月が経ちました。正直なところ“ポリクリを終えて”の項に、何を書かかという事を僕自身とても悩みました。ポリクリに関する詳細な内容は荻野さん、飯島くんが書き記してくれることと思います。

そこで僕の方からは、ポリクリの日々を振り返り、臨床実習に真剣に向き合う今だからこそ感じるポリクリを通しての反省点を書き記し、これからポリクリに臨む後輩たちへのメッセージとさせて頂ければと思います。

ポリクリが始まったのは、5年生の5月。4年生の後期にある多くのテストに合格し、春休み明けからのスタートでした。とうとう5年生まで来て、後期からは臨床実習が始まるのだと意気込みつつも、正直なところ実習に取り組む姿勢は4年生までの頃と変わらないものだったように思います。今思い返してみると、このポリクリの期間をもっと大切にしておくべきだったという後悔が自分の中で非常に大きいように思います。

ポリクリで初めて取り組んだ医療面接練習や口腔外科・麻酔科実習での採血、伝達麻酔の相互実習など、緊張しながらも多くを学び、それは一度経験する事で忘れられないほど印象的なものでした。ですが、臨床実習に上がった今、ポリクリで経験したはずのことが、上手くできない、もしくは忘れていた自分がいる事を日々感じています。

どうしてあれほど印象的だった経験が、今できないのか。それはやはり自分のポリクリに取り組む姿勢に問題があったように思います。5年生前期までの実習は、模型を使用した実習や相互実習が中心でした。相互実習の相手は長い時間を共にした過ごしたクラスの友人です。しかし、それがひとたび臨床実習に出れば、相手にするのは患者さんという初対面の方々。相手が患者さんとなる

だけで、友人なら簡単に伝わる事も、そう上手くはいかないという現実を痛感しました。

口で言うのは簡単でも実際に行うのは難しい、ということは多くありますが、自分自身の経験から、この項を読んでくれている後輩達に伝えたい事があります。ポリクリは、自分の患者さんに治療を行う前に、これまで培ってきた知識を総括して、臨床現場にそれを落とし込む経験ができる最初で最後の機会です。

これまでの模型実習とは一線を画す緊張感を持って取り組み、自分が経験した実習を家に帰ってから、少し自分の時間を削ってでも復習を欠かさず行う事を強くお勧めします。臨床実習に今後上がってくるみんなのこれからに必ず生きてくると思います。

5年生の4月に開始となりますが、それもすぐに過ぎ去り、夏にはCBT、OSCEと重要な試験が続き、あっという間に臨床実習を迎えます。一度過ぎ去れば二度と取り戻すことの出来ない経験を、本当に大切にしてほしいと心から思います。引き継ぎの際には後輩に恥じぬ先輩でいられるよう、僕自身も今よりさらにギアをあげて臨床実習に取り組みます。日々試行錯誤しながら多くのことを学び、それを後輩に伝えていけたらと思っています。残り少ない歯学部生としての毎日を大切に、臨床実習へ全力で取り組む49期の仲間たちと共に、国家試験の合格に向けてこれからも切磋琢磨して参りたいと思います。



筆者は後方左から2番目